

2.2 ③空港シャトルバス(多古台バスターミナル～成田空港)の利用状況

- ◆ 利用者数は順調に伸びており、H28時点では対H24比1.66倍となっている。
- ◆ 午前発は多古からの乗車が、午後発は成田からの乗車が3/4以上を占める。多古から成田、あるいは鉄道に乗り換えて東京方面への通勤・通学利用が想定される。
- ◆ H28.9月の大幅増便(日11便→日20便)以降、日平均30人前後の利用者増が見られる。

表 利用者数の推移(H24～28)

(人)

	成田空港第2 ターミナルビル 行	多古方面 行	合 計	H24を1として
H24	19,129	17,293	36,422	1.00
H25	22,249	20,212	42,461	1.17
H26	24,459	23,147	47,606	1.31
H27	26,104	25,398	51,502	1.41
H28	30,600	29,681	60,281	1.66

出典：多古町資料

(人/日)

		平成28年度利用者数(日平均)											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
午前発	多古発	58.0	60.0	61.7	55.2	46.7	60.3	68.0	64.6	64.8	59.9	63.7	67.6
	成田発	11.8	16.4	16.0	14.1	15.6	18.8	17.6	16.4	17.6	14.7	18.1	19.9
	多古発の割合	83.1%	78.5%	79.5%	79.7%	75.0%	76.3%	79.4%	79.8%	78.7%	80.3%	77.9%	77.2%
	便数	5便					9便						
午後発	多古発	16.1	20.0	19.0	21.5	20.5	25.6	25.0	23.9	25.8	23.9	25.9	28.5
	成田発	61.6	62.5	62.5	59.7	49.3	67.4	73.4	71.7	69.5	67.5	66.4	67.8
	多古発の割合	20.7%	24.2%	23.3%	26.5%	29.4%	27.6%	25.4%	25.0%	27.1%	26.1%	28.1%	29.6%
	午後	6便					11便						
一日計		147.5	158.9	159.3	150.5	132.1	172.1	184.1	176.5	177.6	166.0	174.0	183.8

出典：多古町資料

図 月別利用者数(H28)

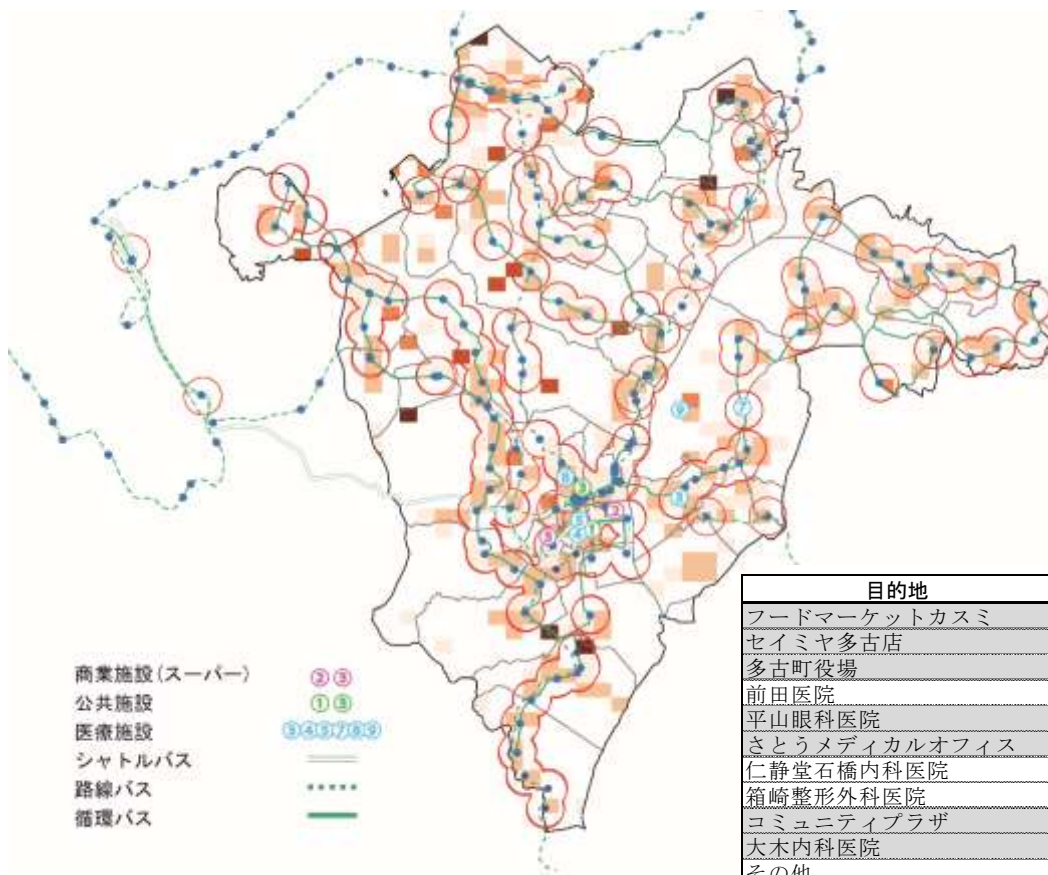
2.3 ④ デマンドタクシーの利用状況

- ◆ 6月、11月、2月、3月が9回/日以上と利用が多く、一方で4月、5月、9月、10月は比較的使用が少ない。
- ◆ 訪問先としては商業施設（21%）、医療施設（21%）、公共施設（9%）が多く、施設の立地から訪問地域を見ると、町中心部の施設への訪問回数が4割近くになる。

表 デマンドタクシー・月別利用者数(H28)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運行日数	9	11	8	11	9	9	11	9	9	8	8	8	110
利用回数	69	75	75	94	72	70	87	96	80	71	82	72	943
日平均	7.7	6.8	9.4	8.5	8.0	7.8	7.9	10.7	8.9	8.9	10.3	9.0	8.6

出典：多古町資料



※グレーは町中心部に所在する施設。

出典：多古町資料

図 デマンドタクシー・訪問回数の多い目的地(地名を除く)

2.4 ⑤多古こども園・通園バス(参考)

- ◆ 各ルートともこども園を8時出発(登園)、15時出発(降園)。半日の場合は降園が11時出発。1日2便(平日のみ)。

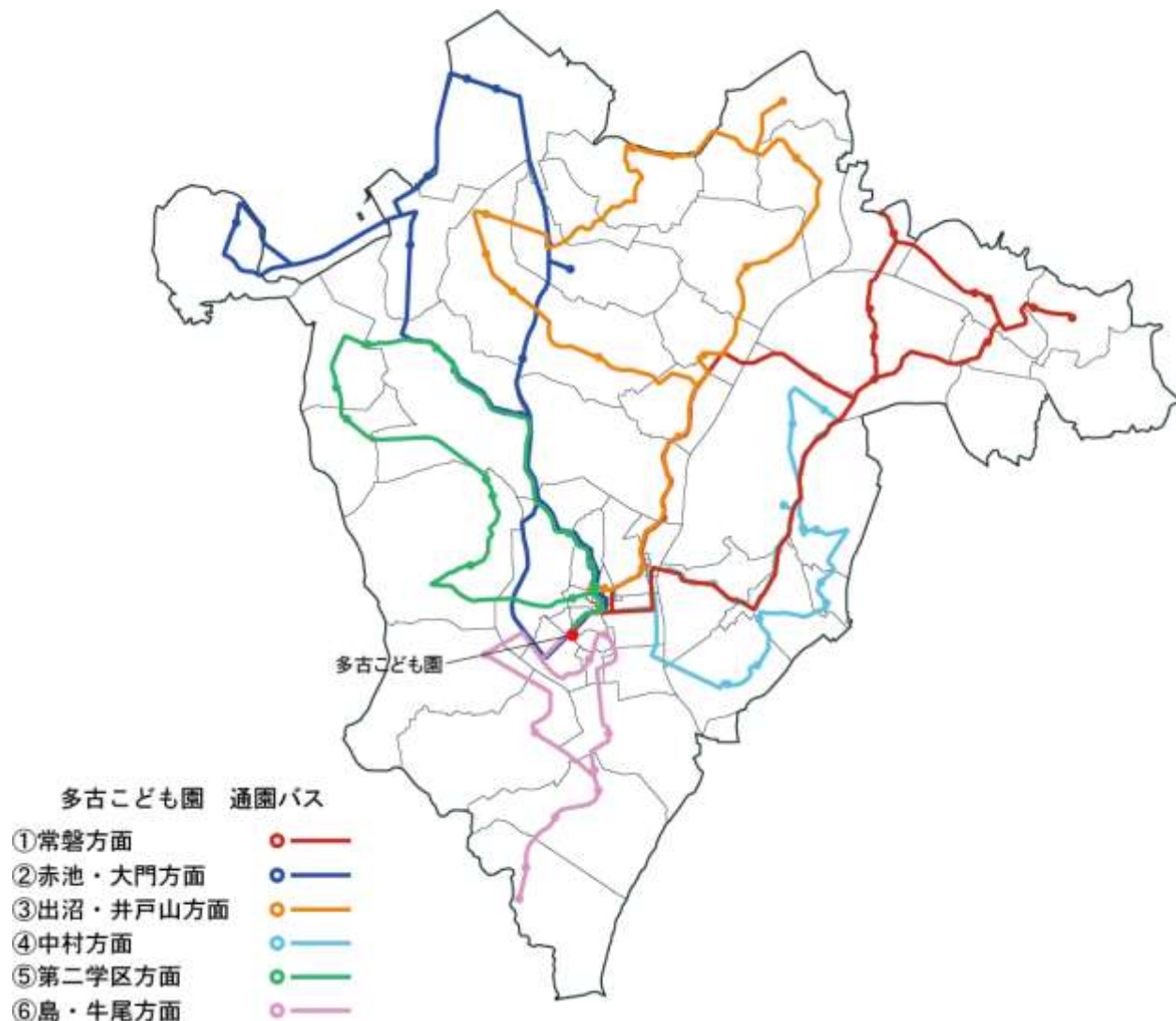


図 通園バス(多古こども園)ルート

表 ルート別利用者数

ルート	登録利用者数
①常磐方面	19
②赤池・大門方面	21
③出沼・井戸山方面	27
④中村方面	35
⑤第二学区方面	35
⑥島・牛尾方面	29
計	166

2.5 ⑥スクールバス(参考)

- ◆ 多古第二・第三小と合併した第一小と、十余三小・興新小と合併した久賀小が、拡大した校区をカバーするために運行。合併の無かった中村小・常盤小ではスクールバスの運行は無い。

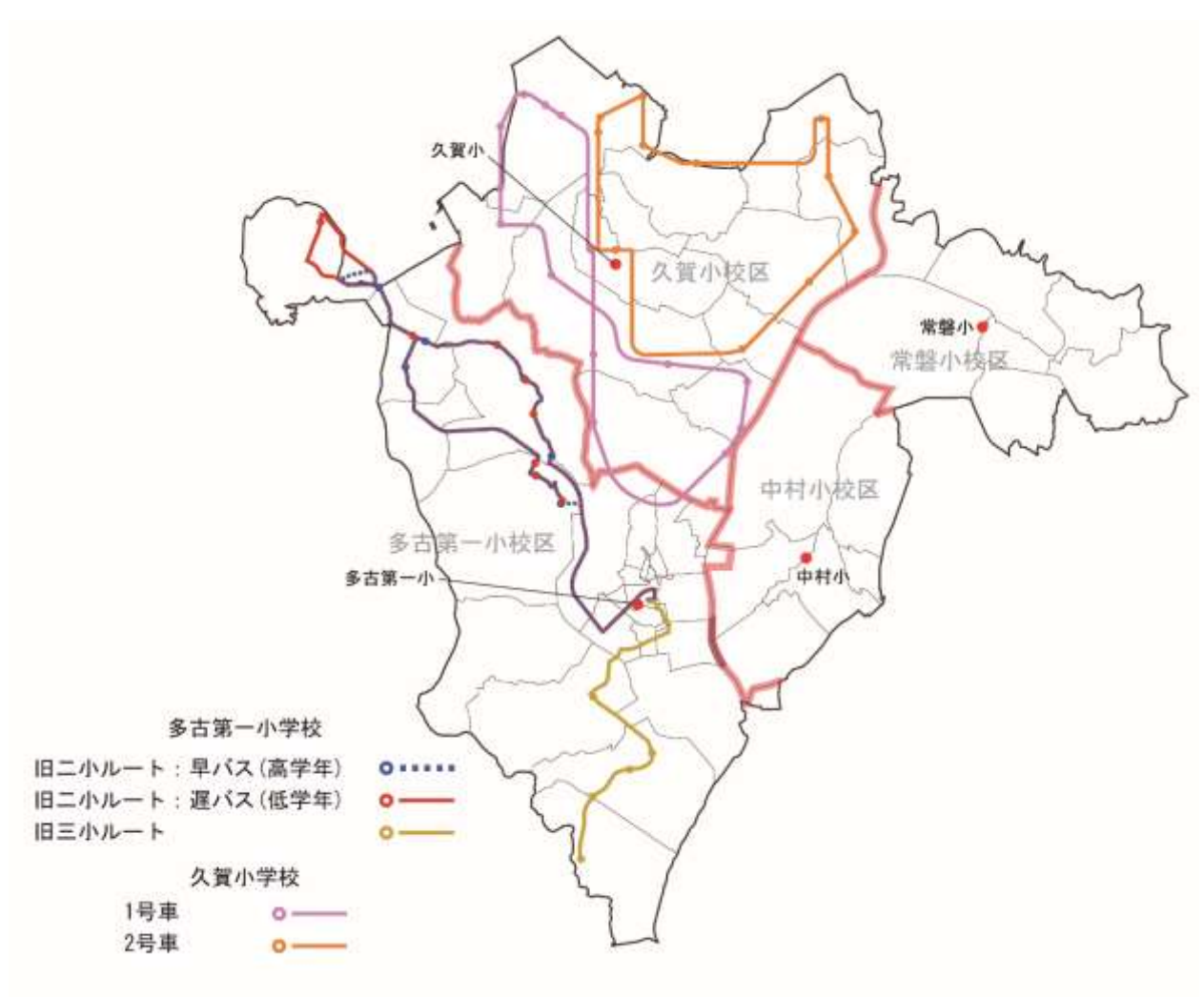


図 スクールバス(多古第一小、久賀小)ルート

表 ルート別利用者数

学校	ルート	対象	登録利用者数	
多古第一小	旧二小ルート	低学年	20	48
		高学年	28	
	旧三小ルート		41	
	計		89	
久賀小	1号車(御所台方面)	低学年	28	59
		高学年	31	
	2号車(本三倉方面)	低学年	14	28
		高学年	14	
	計		87	

3 公共交通の財政負担

3.1 公共交通別の利用者数と収支状況(H28)

- ◆ 千葉交通の桜田線・水戸線では一人当たりの補填額が 700 円を超えている。栗源線は一日当たりの利用者数が 20 人前後だが、多古町内の路線延長が 2.3km と全路線の 1/8 に留まっており、補填額も 100 円以下と低く抑えられている。
- ◆ JR バス関東・栗源線は一日当たりの利用者数が 80 人と多いため、補填額も一人当たり 70 円前後と低く抑えられている。
- ◆ 循環バスの多古ルートは 1 日 20 人と、3 ルートのなかで利用者数が最も少ない。常磐・中ルートは 1 日あたりの利用者数が多古の 2 倍近い。久賀ルートは他 2 ルートの間程度だが、運賃収入は最も高く、回数券・定期券や学生・高齢者などの無料利用が少ない。
- ◆ デマンドタクシーは、全体の運行費用が低く抑えられているため、補填額も 140 万円前後に収まっている。

表 バス収支・補填状況(平成 28 年度)

	利用者数 (人/日)	運賃収入 (千円)	運行費用 (千円)	補填額 (千円)	補填額/ 利用者数(年)	営業キロ (※)
①路線バス	130.3	18,936	110,198	12,502	262.9 円/人	
桜田線(千葉交通)	10.6	2,129	10,964	4,575	1,182.5 円/人	8.2(13.7)
水戸線(千葉交通)	13.2	1,232	6,514	3,617	750.7 円/人	11.0(20.9)
栗源線(千葉交通)	24.7	2,089	9,414	861	95.5 円/人	2.3(16.7)
栗源線(JR バス関東)	81.8	13,486	18,431	2,160	72.3 円/人	8.7(22.6)
多古本線(JR バス関東)			64,875	1,289		
②循環バス	103.1	2,496	25,110	22,614	884.4 円/人	
多古ルート	22.3	449	8,421	7,972	1,441.5 円/人	
久賀ルート	35.6	726	8,360	7,634	864.7 円/人	
常磐・中ルート	45.2	565	8,142	7,577	675.9 円/人	
回数券・臨時便	--	756	187	570	--	
③成田空港シャトルバス	165.2	14,587	32,423	17,836	295.9 円/人	
④デマンドタクシー	8.6	398	1,832	1,434	1,520.7 円/人	
⑤スクールバス	177	--	25,223	25,223	577.9 円/人	
一小(旧二小線)	48					
一小(旧三小線)	41					
久賀小(御所台方面)	28					
久賀小(本三倉方面)	59					
⑥通園バス(多古こども園)	166	--	26,611	26,611	646.4 円/人	
赤色コース(常磐方面)	19					
青色コース(赤池・大門方面)	21					
黄色コース(出沼・井戸山方面)	27					
水色コース(中村方面)	35					
緑色コース(第二学区方面)	35					
桃色コース(島・牛尾方面)	29					

※路線バスの営業キロ表記は「多古町内距離(全線距離)」。

出典:多古町資料

3.2 補助金額の推移

- ◆ 路線バスは H27 から H28 にかけて補填額が増加している。
- ◆ 循環バスは収入が支出の 1/10 であり、9 割を運行補助に頼っている。
- ◆ シャトルバスは、昨年来の H28 年 9 月から便数を 1 日 11 便から 20 便と倍増したことで利用者（収入）も増加したが、一方で増便によって運行経費（支出）が増加したため、結果として運行補助の額は増加している。
- ◆ デマンドタクシーは、収入が支出の 1/5 程度だが、支出（運行経費）自体が 180 万円前後と低く抑えられており、補填額も他のバス等と比べて安価。

表 交通機関別補助金額の推移

(千円)					
モード	年次	収入	支出	不足分	補填額
①路線バス	H27				10,694
	H28				12,502
②循環バス	H27	2,724	25,930	-23,207	
	H28	2,496	25,110	-22,614	
③シャトルバス	H24	8,804	21,448	-12,644	
	H25	10,462	21,700	-11,238	
	H26	11,664	22,521	-10,857	
	H27	12,527	23,101	-10,575	
	H28	14,587	32,423	-17,836	
④デマンドタクシー	H26	316	1,706	-1,390	
	H27	362	1,801	-1,439	
	H28	398	1,832	-1,434	

出典: 多古町資料

4 公共交通の利用特性と課題

4.1 公共交通の利用特性

- ◆ 空港シャトルバスは、多古町→成田あるいは東京方面への「高校生や会社員による朝夕の通学・通勤利用」がメインの利用となっている。
- ◆ 循環バスは、「朝夕は小中学生の通学利用」、「日中は高齢者の通院、買い物利用」と、利用特性が混在している。
- ◆ 循環バスの常磐・中ルートには、通学に利用している小学生が確認できる（朝の第1便のみ）。常磐小学校にはスクールバスが無いためと考えられる。
- ◆ 循環バスでは、ルートや運行便によっては区間別の利用者数が5人を下回っていることがあり、現行のマイクロバスでは利用者数と比べて輸送力が過大である可能性がある。
- ◆ デマンドタクシーは、町中心部への「日中の通院、買い物利用」が多い。

	主な利用者			利用目的	運行日
	朝	日中	夕方		
①路線バス					毎日
②循環バス	小学生 中学生	高齢者	中学生	朝夕:通学 日中:通院、買い物	平日のみ
③空港シャトルバス	高校生、通勤者			通学・通勤	毎日
④デマンドタクシー	高齢者			日中:通院、買い物	土日祝
⑤スクールバス (多古第一小、久賀小)	小学生			通学	平日 (夏冬の長期休暇時は運休)
⑥通園バス (多古こども園)	園児			通園	平日

4.2 利用特性に見る多古町公共交通の課題

1. 地域の不均衡、公共交通不便地域の解消
2. 地域の需要特性・ニーズに対応した公共交通システムの導入
3. 将来に渡って持続可能な公共交通システムの必要性
4. スクールバスや福祉交通・民間業者との役割分担

